

2018年9月18日

「ヤクルトCSRキャンペーン」を実施 ～ ヤクルトグループ17,855名が『MY「SDGs」行動』を宣言 ～

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）は、「SDGs (Sustainable Development Goals) ※¹」に対応したヤクルトグループ全従事者向けの「ヤクルトCSRキャンペーン」を2018年6月に実施し、グループ社員による『MY「SDGs」行動宣言』の募集を行いました。また、本キャンペーンの一環として、公益財団法人オイスカ※²の「子供の森」計画※³への寄付、「グリーンウェイブ2018※⁴」への参加をあわせて実施しました。

キャンペーンでは、SDGsの17の目標の中から関心のある目標を1つ選び、目標達成に向けて「人のため地球のために」自分だからできる行動を宣言し実行する『MY「SDGs」行動宣言』に17,855人が応募しました。なお、当キャンペーンの取り組みを含め当社のSDGsに関する活動については、外務省Webサイト「JAPAN SDGs Action Platform」にSDGsに取り組む企業の一つとして掲載されています。

【CSRキャンペーン結果告知ポスター】

人も地球も健康に



「人のため地球のために」
私たちがだからできる**SDGs**
達成のためのアクション!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 「持続可能な開発目標」

平成30年度 ヤクルトCSRキャンペーン
“MY「SDGs」行動宣言”の募集



総勢 17,855 名の方から “MY「SDGs」行動宣言”をいただきました。

SDGsの17の目標の中から、当社に関わりの深い5つの目標を選び、その宣言の一部を紹介します。



3

【目標3 すべての人に健康と福祉を】（応募数 3,501）
地域の方全員にヤクルトをお伝えし、お届けすることで健康な生活づくりに貢献します。
（海外の例）I will try to maintain health for myself by taking healthy diet and doing exercise regularly.



5

【目標5 ジェンダー平等を実現しよう】（応募数 289）
ヤクルトレディの仕事を通じて女性やママ達でも活躍できる事を広めていきます。



8

【目標8 働きがいも経済成長も】（応募数 767）
定時内の生産性をあげて時間内で成果を上げます。そして有休は有効に取り、子どもと過ごす時間を増やします。



12

【目標12 つくる責任つかう責任】（応募数 2,195）
食料品は賞味期限の短いものから購入するとともに、 unnecessary 購入は避け、 unnecessary 廃棄を起こしません。



13

【目標13 気候変動に具体的な対策を】（応募数 1,322）
1km以内の買い物やお出かけには、徒歩か自転車を使います。

当キャンペーンの取り組みを含め当社のSDGsに関する活動については、外務省に報告しています。外務省Webサイト「JAPAN SDGs Action Platform」にSDGsに取り組む企業の一つとして、当社のSDGsの活動ページが掲載されました。

全応募者には、環境に配慮した素材^{※5}で作成した「オリジナルクリアファイル」を贈りました。ファイルには、当グループの活動の段階・プロセスごとに、主なSDG sの目標に対応させた、SDG s啓発ポスターのデザインを使用し、従事者へのさらなる意識向上を促しています。

さらに、キャンペーンの一環として、公益財団法人オイスカの「子供の森」計画へ10万円を寄付しました。寄付金は、インドネシア、フィリピン、中国（内モンゴル自治区）の活動に活用されます。

また、「グリーンウェイブ2018」にも参加し、国内のヤクルトグループの工場（13工場）と東京都国立市で植樹を実施しました。

当社では、今後もグループ全従事者にCSR教育を行い、CSR意識の啓発を図っていきます。なお、今年度のキャンペーンの概要は下記のとおりです。

記

1. 名称：「ヤクルトCSRキャンペーン」（1994年より実施し、今年で24回目）
2. 期間：2018年6月1日～6月30日
3. 対象：ヤクルトグループ全従事者
4. 実施内容：
 - (1) 『MY「SDG s」行動宣言』の募集
17,855名が応募
 - (2) オイスカ「子供の森」計画への寄付
 - ①寄付金額：10万円
 - ②支援先：インドネシア、フィリピン、中国（内モンゴル自治区）
 - (3) グループとしての「グリーンウェイブ2018」への参加
 - ①国内のグループ内工場（13工場）で「植樹」を実施
 - ②東京都国立市との「植樹」に関する協働活動



「グリーンウェイブ2018」植樹

- ※1 : 2015年9月に国連総会（193加盟国）にて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、2030年までに国際社会が協力しながら達成すべき地球規模の17の課題・目標をSDGs（Sustainable Development Goals）として設定されました。課題・目標は、保健、教育、都市、気候変動、格差などの問題解決を目指しています。
- ※2 : アジア・太平洋を中心とした地域で、農村開発、人材育成、環境保全を推進している国際NGOです。
- ※3 : 子供たち自身が、学校の敷地や隣接地に苗木を植え、育てていく活動を通じて「自然を愛する心」、「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうというプログラムです。1991年に始まったこの活動は、36の国と地域の4,891の学校に広がっています（2017年3月末時点）。
- ※4 : 国連が定める国際生物多様性の日（5月22日）の現地時間午前10時に各国の企業、学校、市民が植樹等を行う地球規模のキャンペーンのことです。国連が呼び掛けをして、日本では環境省、農林水産省、国土交通省も参加を推奨しています。
- ※5 : 石油や水の使用量を抑え、石灰石を主成分として作製する環境に配慮した新素材「LIME X」です。

以 上